

# 朝日 歌壇 俳壇



「日曜日のプローチ 10」 junaida

## うたをよむ 六甲山新緑夢譚

みどりのゆめばなし

三村 純也

阪神間に住んでいると、六甲山系の新緑、それが深まるとともに、朴、山法師などの花々、様々な鳥の音が楽しめる季節が最も清々しく感じられる。若葉にお住まいで、山荘をお持ちだった稲畑汀子先生も、そうだったのではないかとと思う。万緑に朴の一樹のありどころ。汀子昭和五十四年、私を幹事として、汀子先生を囲む二十代の句会が出来、虚子の時代に倣って、夏行と称する夏季鍛錬会を催すことになった。一回目は芦屋の汀

子郎に二十名前後が泊まり込んだ。一回目は稲畑家の六甲山荘でということになったのだが、「古いしね、しばらく使っていないし、大勢泊まれるかどうか、純也君、下見に行かないか」という電話をいただいた。五月下旬、先生のお車に同乗し、稲畑山荘を訪れた。「INABATA」と書かれた門標があり、フランスとの貿易で財を成されたご先祖が、「INAHATA」では「いなあた」と発音されるので、こう記されたと同った。山荘

長谷川權著『「おくのほそ道」を読む 決定版』「かるみ」という境地を見いだした芭蕉の旅と思考の軌跡をたどる。原文、現代語訳、解説などを収録。(ちくま文庫・1100円)

◇朝日俳壇 入選取り消し 6月8日付の俳壇に掲載した「母の日の母を泣かせて仕舞けり」は、酷似した先行句がありましたので、入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(選評2作品まで)。QRコードから

## 高野公彦選

特大のスーツケースと異国語をかきわけ進むホテルのロビーは (横浜市) 小川 美貴  
負け越しを知らないままに石川の輪島以来の横綱となる (東京都) 椿 泰文  
大道のバナナのたたき売りのこと 発かまして下げる関税 (東京都) 上田 国博  
☆小学生の真つ直ぐな瞳が見つめ居り「風通し」さる原爆死没者名簿(鹿嶋市) 大熊佳世子  
☆人生の重石のごとし広辞苑第一版が書棚にありて (魚沼市) 磯部 剛  
二日間キャットシッター頼まれて並んで相撲観戦をする (春日井市) 神戸 豊子  
三輪山の裾野やさしく広がって受診帰りの吾を迎える (奈良市) 山添 聖子  
家出ネコ見つかったらし電柱のポスターの上「ありがと」の文字 (東京都) 秋岡 昭  
疎遠なる姪の電話に京言葉少し混じりて優しきタペ (橋本市) 秋月 晶江  
タッチパネル任せてという友と来て居酒屋で頼むタラの芽の天ぷら (東京都) 鹿野 文子

【評】1 首目、外国人観光客で溢れている日本の縮図のようなホテルロビー。2 首目、大の里の横綱昇進を心から祝う。3 首目、あのT氏の言動への疑問、違和感。4 首目、原爆で亡くなった多数の命に思いを馳せている真剣な児童らの眼差し。

## 永田和宏選

一人の子に親の記憶を残せずに征ったひとりの父を悲しむ (岡山市) 山本 昌子  
気づかれぬよう戦前ににじり寄るごとき学術会議法案 (観音寺市) 篠原 俊則  
☆人生の重石のごとし広辞苑第一版が書棚にありて (魚沼市) 磯部 剛  
歯磨きは五ミリも出せば十分と言った下宿のあいつに会いたい (宇陀市) 池永 肇志  
「花の色は木の中にあるのです」とふあんず染めあり食料の里 (福島市) 美原 凍子  
たがやした土に小雨が降っているただそれだけ美しい朝 (新潟市) 太田千鶴子  
炊出しのあとの鍋底素手をもて浚うガザの子にあるは「今」のみ (取手市) 緑川 智  
☆小学生の真つ直ぐな瞳が見つめ居り「風通し」さる原爆死没者名簿(鹿嶋市) 大熊佳世子  
「世界一貧しい大統領死去」とごくだみの花あくまで白 (東京都) 齊藤 彰  
xとyを使うと算数の世界が広がることもびっくり (福井市) 丹羽 悠人

【評】山本さん、子である自分に一切の記憶を残さないままに、出征して亡くなった父。そんな父が、そして子がなにと多くいたことか。篠原さん、学術会議法案は、知らぬ間に戦前への回帰の危険性があると警告。十首目は小学六年生。

## 川野里子選

星と星のぶつかり合いだ祈りすら届かぬような祖母とのハグは (日野市) ナクキザシ  
トラの檻の真ん前にある売店で綿飴初めて作ったよ孫のため (秋田市) 高橋 りか  
ひだまりをつかまえようとした仔犬ひだまりにつかまえられぬむる(藤沢市) りつとうゆき  
人ならば膝から頼れたるやうにまた蹲る被災の家は (羽咋市) 北野みや子  
一枚の紙で指先切るごとき友の婚約インスタで知る (横浜市) 菅谷 彩香  
公園のシロツメクサに子が遊ぶ平和に触れているとも知らず (和泉市) 星田 美紀  
☆小学生の真つ直ぐな瞳が見つめ居り「風通し」さる原爆死没者名簿(鹿嶋市) 大熊佳世子  
見つめ合うことなど長くなかったと結膜炎の妻の目を見る (観音寺市) 篠原 俊則  
「ほっとき」と云う処世術くれし友時々光る星となりたり (宝塚市) 田中チサト  
ぶらんこの下に数多の吸殻がきくのは星の降る夜だった (小田原市) 楓川あけみ

【評】一首目、星と星がぶつかるように心でぶつかる。ハグは愛の原点の形だ。二首目、トラに見られつつ恐々作る綿飴。全ては孫のため。三首目、眠るまでの仔犬の動きが見える。十首目、吸い殻を残した人が見た星と孤独な夜を思う。

## 佐佐木幸綱選

並んでた新人部員勧誘の立て着消えて5月が終わる (名古屋市) 百々 奈美  
重さうな人工骨に太きボルト叔母を支へてをりし物たち (羽咋市) 北野みや子  
狸リス狐カモシカ見慣れてるいつもの道を熊が横切る (中野市) 黒岩美智子  
現身をスーツにねじ込むことに慣れ教育実習もうすぐ終わる (ひたちなか市) 菅野 公子  
初めてのトイレそうじをがんばって六年生とみがきまくった (春日井市) 吉田 朱花  
巢の縁に雛の頭の産毛見ゆ燕の子育てこれより佳境 (下関市) 内田 恒生  
参観のお知らせ「親は一人まで」寂しそうな夫の横顔 (ひたちなか市) 安澤 美幸  
吊橋の途中で止まりふりむいて揺らす女もわが内にいる (北海道) 飯田左智子  
若い娘がマシンに座りスマホ見る 汗かくジムではびこるナガラ(習志野市) 元杉 紀雄  
年毎に不漁のつづくスルメイカ松前漬の味が気になる (三浦市) 秦 孝浩

【評】第一首、五月の終わり頃の大学の正門付近の光景。例年通りの光景である。第二首、場面は斎場、焼き場だろう。叔母さんの一生をしみじみと想起している場面。第三首、日本各地で野生動物たちがどんどん里に出て来ているらしい。